

2025

No. 13

SHODAI

学園広報誌 商大

SHODAI



学校法人高崎商科大学
since 1906

高崎商科大学大学院

高崎商科大学

高崎商科大学短期大学部

高崎商科大学附属高等学校

高崎商科大学佐藤幼稚園

〒370-1214

群馬県高崎市根小屋町741

TEL 027-347-3399

Contents

- 法人トピックス 学園主催海外研修に参加して ～台湾～ (P1)
- 大学トピックス (P2)
未来人材育成オフィスの設立、リスキリング事業の始動
- 短期大学部トピックス (P3)
「経営学科」始動：「じぶんをつくる場所」としての、新しい学びのスタンダード
- 後援会による海外教育助成金制度 (P4)
- 附属高等学校トピックス (P5-6)
部活動の活躍紹介（硬式野球部・フェンシング部・放送部）
- 佐藤幼稚園トピックス (P7)
父母の会教養活動『ゴスペル体験』体験
環境整備『落ち葉掃き』・遊戯会・生活発表会
- 2025年度役員名簿 (P8)
- 学園情報 (P9-10)
- Campus Information (P11)

法人トピックス

学園主催海外研修に参加して ～台湾～

学校法人高崎商科大学では求める教職員像として、「何事に対しても主体的に行動し、当事者意識をもって考えられる」「協働力をもってチームで活動ができる」「多様性を理解し、他者を尊重できる」「新しいことや変革に対してチャレンジできる」を掲げています。これらの能力を開発し、より良い教育環境を整えていくことを目的として、学園主導の研修を企画しています。

■ 高崎商科大学 商学部経営学科 准教授 中 川 由 理

本研修において、台北城市科技大學、台北市立松山高級商業家事職業學校、桃園至善高級中、東吳大學、社團法人台灣同志諮詢熱線協會、および定番の観光地を視察いたしました。現在の台湾の教育の特徴は9割を超える大学進学率と大学学費が日本の半額以下という状況であり、誰もが大学進学をしている状況であるといえます。少子化の状況は日本と同様であることを鑑みると、現在の台湾の教育状況は日本の数年先の様子ではないでしょうか。誰もが大学に進学をしているとすると学習に困難さを抱える生徒の増加も考えられますが、その対応が極めて慎重になされている様子が多くうかがえました。専門学校から改組した科技大学では特に学習面だけではなく、生活態度を重んじ、昼夜問わずに担任が指導・ケアを行いご苦労されている様子が印象的でした。また、職業に直結する技術を獲得するためのカリキュラムを多く設置し、独自性を持たせる工夫がみられました。台湾の声優を招いたアフレコ大会、日本のアニメやキャラクターを参考にしたアニメ映像の作成・コンテストの参加・学内の作品展示、日本の学校との交流等、生徒・学生の興味関心を高め、積極的に参加させることで自信を高めていこうとする工夫がなされていました。その他、多様な背景や悩みを持つ生徒・学生に対して、学内のカウンセリング体制の整備（ハラスメント事案の対応など）やLGBTQに対する配慮は大学全入時代に特に必要とされる事項であり、今後の日本の教育現場においても学生の学びや心理的ケアの体制は再整備すべき事項であると感じさせられました。



台北城市科技大學の広大な校舎を丁寧にご案内いただきました。学内に実習に使われるホテル施設もあり、国際交流の場として受け入れも可能とのことでした。

■ 高崎商科大学附属高等学校 数学科教諭 加賀美 隼 人

法人主催の台湾研修に参加させていただきました。台北市を中心とする大学・高校を視察し、台湾の現状と課題、国家戦略を目の当たりにしました。大学卒業後は海外に就職する学生が多く、国際関係や観光について学ぶ環境が整えられており、積極的に海外の企業や大学との交流を行っています。高校も国際関係（外国語）や建築関係、工業や農業など、就職に直結する学問を学び、さらに大学で知識を深め就職するというのが割合的に多いと思われます。

また、少子化問題は日本同様の大きな社会問題の一つということで、大学も学生募集には苦労している状況がうかがえました。そのため卒業生が社会で必要とされ、活躍できるように在学中は「品格」をととても大事にしているようです。日本にいる台湾の方の様子を考えるとものすごく納得がいききました。

LGBTQ団体の視察もしました。日本においても10人に1人は該当者がいると言われています。社会的受け入れのシステムや気軽に相談できる環境を整えていくことが必要だと感じました。

今回の台湾研修を通して、いかに現在の台湾が確立されてきたのか、歴史的背景から学ぶことができました。今の日本で安心しすぎることなく、グローバルな視点で物事を捉え、外から見た日本の長所と短所を分析していくことが必要ではないかと思います。帰国してからの白米がものすごく美味しかったです。



生徒の作品を展示している様子。生徒たちが生き活きと作品について説明してくれたのが印象的でした。



人気観光地である九份の様子。日本人観光客がとても多く、迷路のような細い路地に新規の食べ歩きのお店が連なっている。日本の観光地の状況とよく似ていました。

大学トピックス

未来人材育成オフィスの設立、リスキリング事業の始動

高崎商科大学 未来人材育成オフィス

准教授 中 鉢 直 宏 Naohiro Chubachi

【未来人材育成オフィスについて】

本学では2025年に「未来人材育成オフィス」を設立し、大学の経営改革の一環として、社会人を対象としたリスキリング事業に取り組んでいます。「未来人材育成オフィス」は、「令和6年度少子化時代を支える新たな私立大学等の経営改革支援」事業のうち、「少子化時代をキラリと光る教育力で乗り越える、私立大学等戦略的経営改革支援」に選定されたことを契機に設置されました。本支援事業は、少子化が進む中で、自治体や産業界と連携し、社会や地域の未来に不可欠な専門人材を育成するとともに、柔軟な大学経営への構造転換を図る私立大学等を、原則5年間にわたり継続的に支援するものです。この支援を生かし、本学のブランド力・競争力の向上を目指したリスキリング事業を展開しています。リスキリングとは、時代の変化に応じて新たに求められる知識やスキルを身に付ける学び直しであり、リカレント教育の一つです。本学の研究成果や教育資源を活用したプログラムを通じて、地域企業の従業員を対象に、専門的および汎用的スキルの向上を支援し、労働生産性の向上や地域課題の解決に貢献することを目指しています。あわせて、学生に質の高い実学教育を提供することで、大学の価値向上と経営改革につなげていきます。

【リスキリング事業の取組】

本取組は、自治体や商工会議所等へのヒアリングから始まり、リスキリングに関する調査から開始しました。2025年3月には、群馬県、高崎市、群馬銀行、富士フィルムビジネスイノベーションジャパン、加賀ソルネット、リアセックから協力者を迎え、運営協議会を発足しました。様々な外部の意見を取り入れながら、4月以降は企業との連携強化とニーズ把握を目的に、アンケート調査の実施、また、職員と教員がペアとなり地元企業への訪問調査を行い、地元企業の現場の声に耳を傾け「建設業経理士」「人材不足」などの意見を参考にセミナーや講座への企画を行ってきました。

9月18日には、リスキリング事業の情報発信を目的としたWebページ（LP）を公開し、セミナーや講座情報の提供を開始しています。あわせて、地域の企業向けのリ

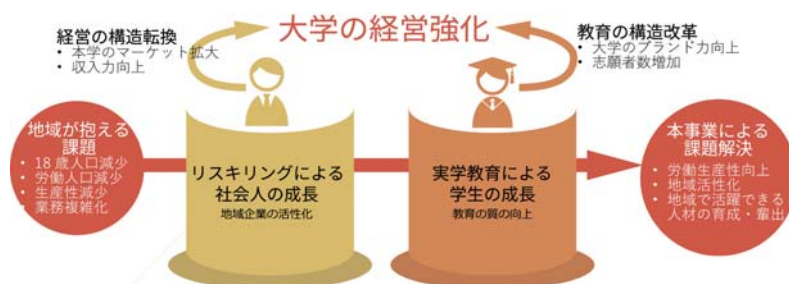
スキリングセミナーを開催し、「人が育ち、組織が変わるリスキリング ― 職場のエンゲージメントと学び直しの実践策 ―」をテーマに、第一部では神谷 俊氏（株式会社エスノグラファー 代表取締役）、第二部では、尾形比呂和氏（合同会社リベラキャリア 代表社員）を講師に迎え、企業の人材定着やエンゲージメント向上、変化に強い組織づくりについて講演していただきました。当日はたくさんの企業から参加いただき、教職員を含め97名と大盛況となりました。参加者には管理職や経営者層が多く、業種も多岐にわたりました。アンケートでは「業務に生かせる内容だった」といった好意的な回答が多く寄せられ、リスキリング事業への理解を深める機会を提供することができました。

現在、「建設業経理士2級合格講座」など4つのリスキリング講座を企画し、11月から提供を開始しています。本オフィスは立ち上げ段階で試行錯誤は続いているますが、リスキリングという地域社会に貢献する新たな学びの場として、今後も取組を進めていきます。

「未来人材育成オフィス」が、本学および地域コミュニティや社会にとって欠かせないものとなるよう、これからの皆様のご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。



リスキリングセミナーの様子



未来人材育成オフィスのビジョン

短期大学部トピックス

「経営学科」始動：「じぶんをつくる場所」としての、新しい学びのスタンダード

高崎商科大学短期大学部 経営学科長

中村 雅典 Masanori Nakamura

【学科長メッセージ】

あえて選ぶ「2年間」、とりあえず選ぶ「4年間」を越えていく

2024年度に先行してスタートした「新カリキュラム」の実績を基盤に、2025年度、本学は「現代ビジネス学科」から「経営学科」へと名称を変更し、新たに策定したタグライン「じぶんをつくる場所」を掲げ、新たな一歩を踏み出しました。この進化において最も重視したのは、現代ビジネス学科時代から築き上げてきた「実務教育」の伝統と、これからの社会で必須となる「アカデミックな知見」の融合です。新しい経営学科では、「医療事務」「ホテル」「ブライダル」といった業界直結の専門スキルを学ぶ機会はそのままに、それを支える土台として「経営」「情報」「国際」の3つのフィールドを体系化しました。特定のスキル(How)だけでなく、ビジネスの仕組みや多様な価値観(Why)を同時に学ぶことで、どのような業界でもリーダーシップを発揮できる「自立した人材」を育成します。

そして、学生一人ひとりが思い描く「じぶん」をつくるために、多様な夢や目標へフレキシブル（柔軟）に応えるエンジンが、既に2024年度より稼働している「4学期制（クォーター制）」と「100分授業」です。1回の授業時間を100分に拡大し、学修密度を高め、必要な学びを短期集中で効率よく修得できるようになりました。この「学びの質の向上」と「時間の創出」によって実現したのが、1年次の第4クォーター（11月中旬～）から春休みまでの「約4.5か月」という長期期間です。この「約4.5か月」という期間は、1年間の「3分の1」以上にあたり、2年間という限られた期間の短期大学において、これほど長い時間を学外活動に投資できるカリキュラムは、これまでの常識では考えられませんでした。あえて一歩踏み出しております。制度導入の背景には、「1か月程度の短期留学や実習では物足りない。もっと深く現場に浸かりたい」という意欲ある学生たちの声があり、その想いに応えるため、希望する学生が11月中旬から約4.5か月間、学外へ飛び出せる環境を整備しました。長期インターンシップや留学といった「実戦」に、納得いくまで没頭できる時間と機会。この「挑戦の自由」を保障することこそが、経営学科の新しいスタンダードです。それでは、実際にこの新しい制度を活用し、一歩を踏み出した学生の声をお聞かせください。

【学生特集記事（インタビュー）】

「4.5か月の長期挑戦（ギャップターム）。北海道・後志で挑む英語インターンシップ」

新制度「4学期制」を活用し、現在、北海道・後志（しりべし）での長期インターンシップ（約4.5か月）に挑んでいる1年生の笹岡さん。実は彼女、夏休みにも1か月間

同地で実習を行っていましたが、「それでは足りない」と今回の長期挑戦を決めました。なぜ短期では満足できず、授業期間を使ってまでの再挑戦を決めたのか。現地で奮闘する笹岡さんに、その決意と背景を聞きました。

Q. そもそも、最初のきっかけ（夏の参加）は？

A. 以前から留学への憧れはありましたが、費用のことや、いきなり海外で生活することに不安がありました。そんな中、授業の取り組みから「後志プログラム」を知り、「国内にいながら英語を使って、世界中の人々と共に学べる」という点に魅力を感じ、まずはここから挑戦しようと決めました。

Q. 夏の1か月を終えて、どんな気持ちが残りましたか？

A. 第一歩を踏み出した喜びの一方で、自分の英語力不足を痛感し、「成長としてはまだ未 completion」という悔しさが残りました。今の自分に満足せず、より高いレベルに挑戦したいという気持ちが強くなりました。

Q. なぜ「冬」に、しかも「同じ場所」へもう一度行こうと決めたのですか？

A. 一度働いた場所なので、業務を一から覚える必要がなく、その分を英語力の向上に100%集中できると考えたからです。また、実際に夏を経験したことで、「国内という安心できる場所でありながら、環境は完全に海外」であることを肌で感じ、ここなら安全に、かつ確実に大きく成長できると確信したからです。

Q. 通常の春休み（2月～）からではなく、あえて授業期間を使う「4学期制（11月中旬～）」を選んだ理由は？

A. 大学に通って過ごす期間を、自ら行動することで得られる「実践的な学び」へと置き換えたいという強い思いがあったからです。長期休暇だけでなく、授業期間もフレキシブルに使えるこの制度なら、勉学と多様な経験を両立できると考え、迷わず決断しました。

Q. 今回の長期インターン、意気込みを教えてください。

A. 夏は業務に慣れるので精一杯でしたが、今回は「教えてもらう」立場ではありません。「自ら考え、主体的に行動できる戦力」になることが目標です。多くの外国人観光客が訪れる冬のシーズン、チームの一員として貢献できるよう日々頑張ります。

大学に通う時間を、自ら行動する「実学」へ置き換えるという彼女の戦略的な選択。それは、「とりあえず4年」ではなく、「濃密な2年」で社会に出るための力を磨くという、新しい時代の学び方です。「じぶんをつくる場所」として進化した経営学科は、常識にとらわれず、最短距離で社会のリーダーを目指す学生たちをこれからも全力で応援していきます。

海外教育助成金制度

本制度は、高崎商科大学・高崎商科大学短期大学部の海外渡航プログラムに参加を希望する学生のみなさんを経済的に支援し、多様な学びの場を提供することを目的として、本学後援会から加入者に限定し援助を行うものです。所定の申請条件を満たし審査を通過した学生には、渡航費（サーチャージ料を含む航空チケット料）を、1名につき上限10万円（短期プログラムの場合は上限5万円）を助成します。今回は、この制度を利用して海外プログラムに参加した2名の学生の体験談をご紹介します。

台湾SSPに参加して

高崎商科大学 商学部経営学科 1年 鳥山 陽



私は2025年9月1日から9月10日まで、海外プログラム IPPOプロジェクト「台湾SSP（Short Stay Program）」に参加しました。このプログラムは私にとって濃密で貴重な体験となりました。

私がこのプログラムに参加したのは、大学に在学している今の時間を利用して海外での生活や学びを通して人生経験を積み、自分の視野を広げたいと考えたからです。また、金銭的な不安がありましたが本校の助成金制度があったことがプログラムへの参加の後押しになりました。

今回のプログラムを通じて、私が最も成長したと感じているのは、多様な価値観に対する柔軟性です。日本語を学んでいる現地の高校生（稲江家事高校）や大学生（中台科技大学）との交流では、文化や考え方、コミュニケーションの取り方に違いがあり、最初は戸惑う場面も多かったです。しかしその際には自分の常識だけで判断するのではなく、相手の立場や背景を考えながら接することを意識したことで、徐々に理解を深めることができました。言葉が十分に通じない場面でも、ジェスチャーや表情、簡単な英語を使いながら相手に合わせて伝え方を変えることで、円滑な交流が可能になりました。この経験を通して、状況に応じて行動を変える柔軟性の大切さを学び、異なる価値観を受け入れる姿勢が相互理解につながることを実感しました。また、自身の大きな成長につながったと思います。

交流以外にも印象的な体験がありました。大学生と訪れた彩虹眷村では、干支の壁画や「レインボー戦士」による演奏が鮮やかで心に残りました。そこで撮ってもらった写真は、台湾ならではの温かく柔らかな雰囲気を感じさせる思い出となりました。また、生活面ではコンビニに入ると八角の香りが強く漂い、日本ではあまり馴染みのない匂いに最初は戸惑いました。慣れるまで少し大変でしたが、これも台湾の食文化を象徴する体験として記憶に残っています。現地の人々の文化に触れることで、交流とは異なる形で台湾の魅力を実感することができました。

さらに、参加者同士で訪れた十分瀑布では、豪快に流れ落ちる水の迫力と幻想的な光景を前に、自然の美しさを共に味わうことができました。現地の人との交流とは別に、

仲間と共有した時間がプログラムをより充実したものにしてくれたと感じています。

このように、交流や文化体験、仲間との時間を通じて、異なる価値観を受け入れる姿勢の大切さを実感し、自身の大きな成長につながったと確信しています。

初めての海外で不安なことが多くありましたが、プログラムの事前学習を通じて台湾の歴史や社会、渡航に関する基本的な情報を学ぶことができ、安心して台湾に向かうことができました。そして、通常の旅行では体験できない現地の生徒や学生との交流や政府関係機関の訪問を通じて有意義な10日間を過ごすことができました。

オーストラリアの語学研修に参加して

高崎商科大学 商学部経営学科 3年 塩尻 瞳



私は2025年の夏、海外プログラム IPPOプロジェクト「オーストラリアSPC（サンパシフィックカレッジ）語学留学」に約1ヶ月間参加しました。せっかくなら、日本ではできない体験を積極的に挑戦したいと思い、助成金制度を利用しました。おかげで金銭面の不安を感じることなく、さまざまなアクティビティに参加することができました。現地ではクラスメイトだけではなく地域の人々とも交流ができ、英語を通じて多様な価値観に触れることができました。最初は英語が聞きとれなかったり、言葉がうまくでてこなかったりと悔しい思いもありました。しかし周囲の人々がゆっくり話してくれたり、こちらの意図を汲み取ってくれたり、温かく支えてくれたため、安心して会話に挑むことができました。「英語を学ぶ」だけではなく、そのような困難を乗り越えるプロセスそのものが大きな学びとなり、「失敗を恐れず挑戦する姿勢」が自分の中に芽生えたと感じています。

留学前は英語で話すことに不安を抱えていましたが、留学後は「伝えようとする姿勢」が大切だと気づき、積極的に会話に臨めるようになりました。また、多様な価値観に触れたことで、自分の考え方を見直すきっかけになりました。

この経験を通じて、語学力だけではなく「協働性」「積極性」「挑戦する力」など、さまざまな力を培うことができました。助成金制度の支援に心から感謝するとともに、この経験を今後の学びや挑戦に活かし、自分のキャリア形成につなげていきたいと思っています。

附属高校トピックス

硬式野球部活動報告

硬式野球部 部長 齋藤 力也



本校野球部は、地域から愛される部活動を目指し、創部当初から「礼儀・努力・継続」を大切にしてきました。創部時は部員数も少なく、練習環境も整っていない中、先輩たちは限られた設備で工夫を重ね、地道な努力を積み重ねながら力を伸ばしてきました。やがて部員数は増え、指導体制や練習設備も段階的に充実し、技術面だけでなく人間の成長を重視する伝統が代々受け継がれてきました。この長い歴史の積み重ねが、現在のチーム力を支える基盤となっています。

今年度の新チームは、創部の精神を引き継ぎつつ、現代野球に対応するための基礎強化に取り組みました。投手陣はフォームの安定と体幹強化に重点を置き、打撃陣は状況判断力とつなぎ意識の向上を図りました。また、食事管理やウエイトトレーニングにも全員で取り組み、体づくりの面でも大きな成長が見られました。守備面では内外野の連係練習を徹底し、補球・カバーリングの動きに安定感が生まれ、秋季大会では失策が減少するなど、練習の成果が結果として現れました。

その積み重ねが形となり、ついに今年度、創部初の関東大会出場という歴史的快挙を達成しました。これは創部から



今日まで、数えきれない努力を重ねてこられた先輩方、指導者、保護者、地域の皆さま全ての支えによって手にした大きな成果であり、部の歴史に新たな一章が刻まれる瞬間となりました。

関東大会では、本校硬式野球部監督の出身校でもある名門・横浜高校と対戦しました。全国屈指の強豪を

前に、序盤から積極的な姿勢で挑み、粘り強い守備と果敢な走塁でチャンスをつくるなど、創部以来積み上げてきた野球が随所に表れました。結果は9回サヨナラ負けの惜敗となりましたが、全国レベルのスピード・技術・判断力を肌で感じたことは、選手たちにとってかけがえのない財産となりました。

創部からの歴史を胸に刻み、そして今年度の成果を礎に、次の目標は「甲子園出場」です。高崎商大附属野球部は、これからも伝統を守りながら進化を続け、地域の誇りとなるチームを目指して努力してまいります。

硬式野球部
ホームページ



硬式野球部
公式instagram



硬式野球部
公式X



復活の機運

フェンシング部顧問 砂山 雄一郎

日頃から皆様には商大附フェンシング部の活動にご理解をいただき、ありがとうございます。おかげ様でこれまで大きな怪我や事故もなく、

日々の練習に取り組むことができています。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

さて、近年のフェンシング部ですが、平成17年～28年あたりの全盛期から比べると、かなりの低迷が続き、平成18年の全国制覇から、気がつけば19年も経ってしまいました。あれから新武道館への道場移行や、特別予算での電気審判器セット購入、備品の補充など、学園からは多大なる恩恵を賜りましたが、他県が台頭してきたこともあり、全国だけでなく関東でも入賞できない状況が数年続いていました。





しかし、令和5年度から本校卒業生の田村紀佳(H21年度卒・東京五輪女子サーブル代表)が外部コーチに就任したことで、これまで手薄だったサーブル種目の指導・強化が充実しました。結果はすぐに表れ、令和6年度のインターハイ男子個人サーブルで8位入賞・ジュニアワールドカップ代表、今年度も女子個人サーブルで6位に入賞することが出来ました。私たち既存の指導者も得意なフルーレとエ

ペの指導に専念できたこともあり、令和6年度の関東選抜大会では女子エペ団体優勝・全国選抜ベスト8。さらに、今年度の関東大会では女子フルーレ個人で3名の上位入賞・団体でも準優勝と、久々に満足できる結果を残すことが出来ました。また、今冬はこれまで5回出場し、一度も初戦を突破することができなかった日本最高峰の大会である全日本フェンシング選手権団体戦で念願の初勝利を挙げることもできました。



新チームとなり、男女ともに5名ずつという少人数のチームですが、この機運に乗り、これから開催される関東選抜大会・全国選抜大会ともに優勝を目指します。

今後全国レベルの競技力維持と、国際大会にも対応できる選手の育成をはかるべく強化していきたいと考えておりますので、どうぞ皆様、応援宜しくお願い致します。

「放送部 全国・関東大会へ」

放送部顧問 清水彩音

本校放送部は、表現活動を通して生徒の主体性や社会性を育むことを大切にしながら活動している部活動です。7月以降は、2026年夏に開催される全国高等学校総合文化祭(あきた総文2026)への出場権獲得を目標に、今年秋の県大会で上位成績を収められるよう活動してきました。

1年生と2年生による新体制で迎えた今年度の県大会。昨年度は入賞を逃したこともあり、部員たちはそれぞれ強い思いを胸に制作に臨みました。

今年度は地域活性化に取り組む人々の姿をテーマとし、高崎市箕郷町のイベントを題材とした映像作品と、高崎市を拠点とするアマチュアチンドンクラブを追った音声作品の制作に挑みました。取材は連日猛暑の夏休みに複数回行われ、重い機材を抱えての撮影や録音は心身ともに厳しい場面もありましたが、「より良い作品を届けたい」「地域の思いを伝えたい」という気持ちを原動力に、粘り強く活動を続けました。

その結果、音声作品は優良賞、映像作品は最優秀賞を受賞し、それぞれ関東大会・全国大会への出場が決定しました。

今大会では、映像素材の豊富さを活かした編集が特に高く評価されました。「撮れる映像は撮り逃さない」という方針のもと、時間と手間を惜しまず積み重ねてきた取材が形になった結果だと感じています。また、番組構成やテーマ性、作品として何を伝えるのかという点についても一定の評価をいただき、生徒たちの意識的な取り組みが実を結んだ大会でもありました。

一方で、他校の作品に触れ、録音・撮影といった基礎技術や読みの表現力など、まだ磨くべき課題も見えてきました。「技術の美しさ」が大きな力になることを実感できたことも、大きな学びとなりました。

前顧問の退任により新体制でスタートした今年度、部員たちは不安を抱えながらも「今できる最善」を尽くし、取材や制作に取り組んできました。その過程で役割を果たしながら番組を完成させ、自分たちの判断を信じて形にしていく経験を積むことができたと感じています。多くの方々からのご協力・ご支援への感謝を忘れず、これらの経験を土台に技術面の向上と表現の幅をさらに広げ、より完成度の高い作品づくりができるよう、顧問としてサポートしていきたいと思います。



佐藤幼稚園トピックス

高崎商科大学佐藤幼稚園 園長

永井 智江 Tomoe Nagai

父母の会教養活動『ゴスペル体験』体験

ゴスペルとはアフリカ系アメリカ人の宗教的な伝統に根ざした音楽ジャンルで、主に感謝や喜びを表現するために用いられます。そのゴスペルミュージックを11月28日、講師に天笠裕美先生をお招きして教えていただき、父母の会のお父様・お母様が練習しました。

「ゴスペルはCall and responseよ！間違っちゃいいの、楽しくね！」と先生に励まして頂きながら、感情豊かに力強く歌うこと2時間。その後は園児の前でミニコンサートを開催。「Joy to the world」「We wish your merry Christmas」「Very merry Christmas」の3曲を発表して下さいました。子ども達も、知っている歌詞の部分を一緒に歌ったり、振りを真似したりと楽しいひと時でした。参加された保護者の方は「講師の先生に沢山誉めていただき気持ちよく歌えました。心も体もスッキリしました！」と感想を話されていました。



是非甘えさせていただきたいです。保護者の皆様には日頃から幼稚園の教育・保育にご理解・ご協力をいただきありがとうございます。



遊戯会・生活発表会

12月12日に高崎市文化会館にて年少・年中・年長組の遊戯会を、12月15日に幼稚園遊戯室にて未満児クラスのつばみ・おはな・バニー組の生活発表会を行いました。この日の為に毎日練習を重ね、当日はその成果を発揮し堂々と発表することができました。沢山の保護者の方が見守る中、広い舞台上でライトを浴び、歌ったり踊ったりする経験は、子どもたちにとって一生の思い出、また、大きな自信となってくれることでしょう。



環境整備『落ち葉掃き』

幼稚園のシンボルツリーの『大ケヤキ』は、春には新緑が眩しく、夏には園庭に大きな日陰を作ってくれ、子ども達がままごとや水遊びを楽しみます。秋には紅葉が美しく、その後は見事なオレンジ色の絨毯。子ども達は集めた落ち葉に潜り込み『プールごっこ』をしたり、パッと空に投げ花吹雪ならぬ落ち葉吹雪を楽しみます。が…風が吹くと、のんびりムードから一転！落ち葉が舞い上がり、近隣のお庭や側溝に入ってしまう。職員総出で必死に竹箒で掃くことが毎年の恒例ですが、今年は保護者の皆様が落ち葉掃きのボランティアに参加して下さいました。11月18日・20日・21日の3日間、朝の8時30分から約30分間ですが沢山のの方に参加していただき、あっという間にきれいになりました。南門から園外の道路に出て側溝のグレーチングまで外し、砂まで掻き出していただき本当に助かりました。「来年もお手伝いしますよ」と言って頂き、そのお言葉に

2025年度 役員名簿

2025年度 学校法人 高崎商科大学 理事・評議員・監事

理 事 長	森本 淳	理 事	山端 耕之	評 議 員	鈴木 修	評 議 員	丸山 正悟
常 務 理 事	森本 圭祐		松澤 斉		中村 雅典		蟻川 順子
理 事	築 雅之	監 事	加藤 勝二		加島 勝一		新井 清義
	安齊 義宏		高橋 秀実		淵上勇次郎		矢嶋 伸也
	永井 智江				清水 直樹		

2025年度 高崎商科大学・高崎商科大学短期大学部 後援会 役員

会 長	松澤 斉	監 事	上野 光子（保護者会員）	参 与	遠藤 康生（教務課長）
副 会 長	若林 啓友（保護者会員）		小柏千亜紀（保護者会員）	書 記	内山 淳（事務局）
	中嶋 勝利（保護者会員）	参 与	築 雅之（学長）		有坂 祐輔（事務局）
理 事	栗原 信幸		森本 圭祐（法人本部長）		田村 真吾（事務局）
	馬場 弘隆		加島 勝一（事務局長）		岡野 美幸（事務局）
	宮嶋 正		高野 卓子（総務課長）		板垣 哲平（事務局）

2025年度 高崎商科大学附属高等学校 父母の会（部活動後援会）本部役員

会 長	庄司 直樹（F3-9） F3-10	理 事	懸川 恵子（F3-6）	監 事	稲葉ゆきこ（F3-9）
副 会 長	鶴見愛理砂（F3-2）		吉岡理恵子（F3-7）		高見 純子（S3-1）
	小和瀬 健（F2-4）		兼久 和代（F3-10）		久保 求（F2-8）
	荻原陽一郎（F1-3）		甘田 啓子（F3-11）		本多美保子（S2-1）
書 記	清水 龍宴（F3-5）		関口 ゆき（S3-2）		土屋 恭子（S2-2）
	関口美津子（F2-6）		川嶋 理良（F2-2）		内藤 竜一（F1-2）
	中沢 俊輝（事務局）		米山 由紀（F2-3）		新井 智子（F1-7）
会 計	青木 朋子（F3-8）		後藤 佐苗（F2-5）		秋山 乙深（F1-8）
	山下 由佳（F2-1）		三原 芳乃（F2-7）		野澤亜紀子（F1-9）
	高橋 奈未（事務局）		松本 有希（F2-8）		佐藤 高広（F1-10）
理 事	木村佳代子（F3-1）		佐藤 和泉（F2-9）		島田 玲子（S1-1）
	小竹美登里（F3-3）		平野 舞琴（F2-10）		
	原勢 宏美（F3-4）		霞 純子（F2-11）		

2025年度 高崎商科大学佐藤幼稚園 父母の会委員

会 長	篠原 郁哉（ばら組）	会 計	岩崎 友美（ゆり組）	教養委員長	庭野香那子（たんぽぽ組）
副 会 長	田上 祐美（ゆり組）		西村 優（すみれ組）	教 養 委 員	龍神 景子（ちゅうりっぷ組）
副会長・書記	土屋 鮎子（たんぽぽ組）	広報委員長	守田 結華（ばら組）	会 計 監 査	新井 佳（すみれ組）
書 記	綿貫 佳苗（ひまわり組）	広 報 委 員	須藤千恵賀（ちゅうりっぷ組）		小林麻里子（ひまわり組）

学園情報

学園全体

瀏上勇次郎先生 瑞宝中綬章を受章



2025年秋の叙勲において、瀏上勇次郎先生（高崎商科大学・高崎商科大学短期大学部前学長）が瑞宝中綬章を受章されました。瑞宝中綬章は公務などに長年にわたり従事し、成績を挙げた方に授与される勲章です。2026年1月8日には発起人（代表：森本淳理事長、森本圭祐法人本部長、築雅之学長、安齊義宏校長、永井智江園長）が中心となり、ホテルメトロポリタン高崎にて祝賀会が開かれました。



大学

経理研究所

公認会計士試験合格者 11年連続輩出

2025年度公認会計士試験の合格発表が2025年11月21日に行われ、商学部会計学科の2年生2名が見事合格しました。今回の合格者輩出で、本学から11年連続で現役大学生による合格者を輩出したことになり、11年間累計の現役合格者は39名に上ります。



学園表彰「永年勤続表彰」

学園全体

「学校法人高崎商科大学職員表彰規程」に基づき、本学園の教職員3名が表彰され、2025年11月21日に高校と大学にてそれぞれ表彰式を行いました。この規程は、学園記念日または退職日において本学園での勤続期間が25年に達した方を表彰し、心身のリフレッシュのため連続する3日間の休暇（リフレッシュ休暇）を取得していただくというものです。表彰された下記の方々には、森本理事長より表彰状と金一封、祝辞が贈られました。

大学・短大

高校



金
弘錫



中村
雅典



難波
久枝

信越線140周年記念ヘッドマーク作成

高校

本校最寄り駅の北高崎駅を通る信越線は、1885年10月15日に開業し、今年で140周年を迎えました。

信越線開業140周年記念として、地元高校生がデザインした「信越線開業 140 周年記念ヘッドマーク」を取り付けた列車が10月14日から11月30日まで運行されました。

JR東日本高崎支社より依頼を受け、美術部の部員でヘッドマークデザインを考えました。信越線や地域の魅力が伝わるデザインにするため、信越線や沿線からイメージされるだるま、峠の釜めし、めがね橋などの名所・名物やSL、EF63系の歴代車両、現在走行中の211系車両を入れて描きました。

本校からは小山小瑛、高見澤楓恋2名のデザインが採用され、信越線、上越線、両毛線、吾妻線で運行されている211系列車の先頭に掲示されました。他の生徒の作品も高崎駅に展示されました。

ヘッドマークのデザインという形で信越線140周年記念をお祝いできたこと、また、ヘッドマークの制作を通して地域の魅力や信越線の良さを再発見できたことが大変嬉しく思いました。

今後も生徒が思い思いの作品を制作し、それらを多くの方に見てもらえる機会ができるようサポートしていきたいと思います。

美術部 顧問 戸田 未来



大 学
短 大社会連携センター 企業連携「3.5本の矢プロジェクト」
不二家との初の共同開発！
群馬ならではの“カントリーマアム”

社会連携センターは、株式会社不二家と連携し、群馬ならではの素材を活用した「カントリーマアム」を開発しました。本プロジェクトは高崎商科大学：東教授の指導のもと、2024年5月に大学生27名および附属高校生20名と不二家により始動しました。群馬県の観光振興を目標とし、「群馬のポテンシャルを掛け合わせた地域性のある商品」をテーマに、学生はチームごとに現地調査を行い、企画を立案。9月の中間報告会、11月の最終プレゼンを経て、全9チームのうち不二家が選考した2つの企画が採用されました。



1つ目は、2025年6月に発売された「カントリーマアム（富岡シルクミルク）」。期間限定の全国販売が実現し、地域資源を全国へ発信しています。

そして2つ目の商品が、8月5日（火）からエリア限定販売となった「カントリーマアム（焼きまんじゅう味）」です。群馬のソウルフードである焼きまんじゅうは、自宅で焼いて食べる土産品の販売もありますが、賞味期限が短く、会社や友人へのお土産には選ばれにくい点が課題でした。そこで、誰でも手軽に一口で群馬の味を楽しんでもらえるよう、カントリーマアムとして商品化したという学生の思いを、不二家が実現しました。

高 校

キービジュアルが完成しました

本校では生徒募集や更なる認知度向上のため、新たにキービジュアルを制作しました。キービジュアルとは様々なコンテンツや商品などに使用されるイメージ画像のことで、ブランディング施策の一つです。この画像を見れば本校のことをイメージしてもらえることが目標です。本校の制服を着た生徒の周りには、友人や先生とともに、文化祭や多くの部活動、国際教育や検定取得など本校の取り組みが描かれています。多くの生徒が本校での高校生活を通し、それぞれの自分のチカラを手に入れ卒業していく姿から、キャッチコピーは「知らなかった私のチカラ」としました。

今後様々な場面でこのキービジュアルを見かける機会があると思います。見かけた際はぜひ「あ、商大附！」と反応して頂けるとありがたいです。

高崎商科大学附属高等学校 広報 山内 龍太



学園全体

同窓会のご案内

■高崎商科大学附属高等学校

同窓会役員会・総会のほか、同窓会主催の各種イベントを開催しています。今年度は前橋医療福祉専門学校と協力して「動けるカラダを作ろう！プロと学ぶ1日」や、「ぷよぷよeスポーツ体験会」を企画・実施しました。また、9月2日・3日に行われたスポーツ大会においても、同窓会よりペットボトルの飲み物を進呈しました。

【高崎商科大学附属高等学校 同窓会事務局】
〒370-0803 群馬県高崎市大橋町237番地1
TEL 027-322-2827



■高崎商科大学・高崎商科大学短期大学部

2025年10月18日・19日に学園祭「彩霞祭」が開催され、18日には同窓会主催の「ホームカミングデー」を4号館S KYにて開催し、懐かしい同窓生との歓談やビンゴ大会を楽しみました。同日にはFM群馬公開生放送にて同窓会活動の紹介をさせていただいたほか、同窓会総会も開催しました。彩霞祭中は例年、常設ブース「つながりcafé」もキャリサポと一緒に運営しています。世代を問わず卒業生たちが集まれる場所となっておりますので、ご来場の機会がありましたら足を運んでいただくと嬉しいです。

TUC同窓会では、仕事や子育てで忙しい方や、遠方にお住まいの方にも大学時代の懐かしい思い出を感じていただけるよう、HP「巡彩-JUNSAI-」など公式SNSを更新しています。QRコードから、是非活動の様子を覗いてみてください。



【高崎商科大学・高崎商科大学短期大学部 同窓会事務局】
〒370-1214 群馬県高崎市根小屋町741
TEL 027-347-3399

豊かな学びの機会を、あなたの支援で

本学では、教室での授業に加え、学生が社会との接点を通じて実社会での課題解決能力や主体性を育む「実践的な課外活動」を特に重視しています。

学生たちは、企業連携プロジェクト、地域貢献プロジェクト、国内外の体験・交流企画、インターンシップなど、意欲的な活動に挑戦しています。

皆様からご預かりする寄付金は、これらの活動を支援し、学生たちがより深く、そして実践的な学びの機会を得るために活用させていただきます。次世代を担う若者が、社会で活躍するための力を身につけることができるよう、温かいご支援をお願い申し上げます。

本学への個人寄付は、皆様に気軽にご参加いただけるよう、インターネットから簡単にお手続きいただけ、3,000円から承っております。少額からでも学生たちの可能性を広げる力強い支援となります。是非この機会に未来を担う学生たちへの温かいご支援を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

下記に記載の本学ウェブサイトの専用フォームより、必要事項をご入力の上、クレジットカードまたは指定の決済方法にてお申し込みください。

<https://kifu.f-regi.com/fc/contribute/tuc>

皆様の熱意あるご支援が、学生たちの夢を形にする大きな力となります。



専用フォーム

同窓会公式
アカウント



ホームページ
「巡彩」



Instagram



Facebook

ご協力お待ち
しております

登録サ
ー
タ
ー
O
B
／
O
I
G



ア
ン
ケ
ー
ト
起
業
／
独
立
業
生

